

第 71 回 JIA アーバントリップ見学会の報告

実施日 : 2013 年 3 月 7 日 (木)

テーマ : 「復原・保存活用に見る近代、現代建築の手法」

見学先 1・「JR 東京駅」 設計・監理 東京駅丸ノ内駅舎保存・復原設計共同事業体
(株)JR 東日本建築設計事務所・JR 東日本コンサルタンツ(株)

竣工 1914 年

保存・復原・活用工事 2007 年～2012 年

解説者 (株)JR 東日本設計事務所 東京プロジェクト部
丸の内プロジェクト室室長 田原幸夫氏

解説会場 旭硝子(株) A G C studio セミナールーム

2・「国立国会図書館」

本館 : 設計 前川國男・(株)前川建築設計事務所・MIDO

竣工 (コンペ 1954 年) 1961 年～1968 年

新館 : 設計 (株)前川建築設計事務所・中田準一

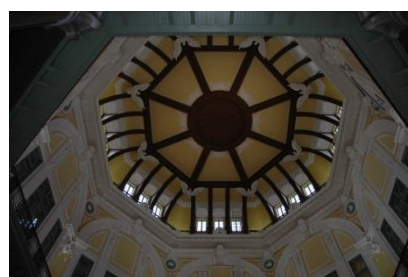
竣工 1986 年

改修 2002 年～2007 年

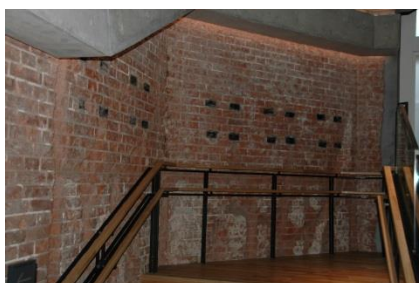
解説者 (株)前川建築設計事務所 相談役 中田準一氏

第 71 回担当コーディネーター

近藤 昇 (近藤総合計画事務所)



「JR 東京駅」



「JR 東京駅」



「国立国会図書館」



「国立国会図書館」

見学後記

東京駅と国会図書館の内部見学と、復原・保存活用に関する勉強ができるということで、今回のアーバントリップに参加した。

■ JR 東京駅

昨年 12 月に復原工事を終えてグランドオープンした東京駅。調査段階から 10 年がかりのプロジェクトで、その総括を担当された田原幸夫さんが説明と案内をして下さった。

東京駅は全長 335m、鉄骨煉瓦造で、今回の復原工事は 3 階部分と南北ドームの復原、ステーションホテルの拡張、本格的美術館として移設されたステーションギャラリー、駅舎としての機能整備がその骨格だ。さらに、もともと 11,000 本の松杭で支持されていた建物全体を 4 年がかりで免震化した地下の工事も、プロジェクトの重要な位置を占めたという。丸の内駅舎における「復原」の定義としては、現存する建造物について後世の修理で改造された部分を原型に戻すこととし、復原部はできる限り歴史を正しく継承し、保存部には手を加えずにしないこと。また、オリジナルの姿がわからない部分については、保存・復原部との調和を考えつつも現代のデザインに置き換えながら機能を維持し続けるというポリシーが貫かれており、見学を通してその事がよく理解できた。

■ 国会図書館

1954 年、戦後初のコンペで選ばれた前川事務所の MIDO 同人による国会図書館は、1968 年に本館が完成。その後 1975 年から前川事務所による新館の調査・設計が始まるが、その 10 年間のプロジェクトの総括を担当された中田準一さんが説明と案内をして下さった。

私が大学を出たばかりの頃、同級生で当時建設省の官庁営繕部にいた友人がこの新館を担当していて、中田さんのことや前代未聞の地下 8 階建の書庫の工事について熱心に語ってくれていた事を懐かしく思い出しながら見学した。

納本制度により蔵書量が無限に増加する国会図書館は、その機能を維持していくために新館を増築し、本館の耐震改修を行った。新館は、周囲に国会議事堂をはじめ国の機関が建ち並ぶ景観を考慮し、本館の背後に地上 4 階（2 万㎡）、地下 8 階（5 万㎡・東京礫層に定着）という構成としたという。内容を知ると与条件を含め、随所に多くの困難があったに違いない建築なのに、本館の背後に過度の主張をすることなく存在し、かつ豊かで心地よい内部空間を体感することができた。

■ 保存・活用について

東京駅の場合は、特例容積率地区制度により、駅舎部分の未利用容積を新丸ビルや大丸などの周辺敷地に移転することで事業化が可能となったという。中央屋根の片面をガラス屋根にして小屋裏空間をレストランに利用するなど、徹底した有効活用を行っているところが印象的だった。国会図書館では、公共建築でありながら地下 8 階まで書庫を埋めるという常識破りの挑戦と、原状のデザインを損なわない耐震改修によって、極めてスマートな保存活用が行われているという印象を持った。経済的な理由で歴史的な建築が消えていく。遺された建築に敬意を払い、コストも含めて保存活用のプログラムを作って提案することが建築家に求められる職能ではないかという、中田さんのお話が心に残った。

青井 俊季（青井俊季建築設計事務所）

追記：第 71 回目を迎えたアーバントリップは感慨深いトリップとなりました。

第 1 回から第 71 回まで 23 年間に亘り東京ガス株式会社都市エネルギー部の後援をいただいて開催されてきましたが東京ガス株式会社降板により最終回を迎えることになりました。

東京ガス株式会社には「長期に亘り後援、本当にありがとうございました」と感謝の意を表したいと思います。

72 回からは新しい形でトリップは続いて行くことになると思います。

これからも暖かく見守っていただければと考えます。

記：第 71 回アーバントリップ担当コーディネーター 近藤 昇（近藤総合計画事務所）